

おきなわ

目 次

- 2 【特集】
福祉の人材確保と普及啓発
- 4 【サンクス運動関連】『福ふくファーム』
が行う高齢者の居場所づくり（浦添市）
- 5 【施設紹介】天願こども園
- 6 『令和4年度日常生活自立支援事業
生活支援員研修会』について
県知事手交式について
- 7 私たち『新人職員』です！
- 8 【ふくし&〇〇】依存症回復施設で行うホースセラピー、
「介護の日」について
- 9 浦添市社会福祉協議会の子ども支援活動
- 10 赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金、
りゅうちゃん子どもの希望募金について
- 12 寄附者芳名、表紙の作者のご紹介 他

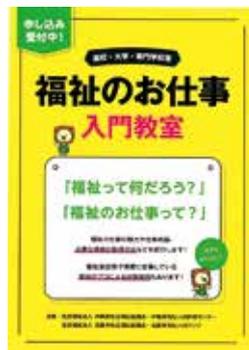


作品名…「平家物語 祇園精舎の鐘の聲」
（第12回かりゆし美術展 書の部／奨励賞）
作成者…上地 恵美子さん（宮古島市）

広報誌「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

福祉の人材確保と普及啓発 ～高等学校生の福祉のお仕事入門教室をとおして～

福祉のお仕事入門教室
の取り組み



県社協福祉人材研修センターでは、将来、社会を担う高等学校生のキャリア教育支援や、福祉系以外の大学・専門学校を対象に福祉の仕事の普及啓発（魅力、福祉の職場の職種、資格取得方法等）を目的に、『福祉のお仕事入門教室』を実施しています。

入門教室では、六つの分野（福祉全般、高齢者福祉分野、障害者福祉分野、保育福祉分野、児童福祉分野、地域福祉分野）について、それぞれ実際に働いている現場の職員による講話を行っています。

今年度の入門教室の申し込みの状況を見ると、福祉科ク

ラス四校、普通科クラス二校（うち一校は進路指導の一環）、支援学校一校の七つの学校から申込がありました。

①福祉科クラス
中部農林高等学校、陽明高等学校、真和志高等学校、本部高等学校

②普通科クラス

メイン高等学院（沖繩・中部キャンパス）、北中城高等学校（進路指導の一環）

③支援学校高等部

那覇みらい支援学校

現時点では、福祉系以外の大学・専門学校からの申し込みはない状況です。

実施高等学校の入門教室の様子

【福祉科のクラス】

福祉科のある高等学校では、校内で学習する福祉の学習以外の分野を学ぶ機会にしたい、コロナウィルス感染拡大の影響によりできなかった施設実習等の機会としたい、現場の話を聞か

せて生徒への刺激として、進路選択などの機会としたいなど、様々な理由で申し込みがありました。

【真和志高等学校未来福祉科】

真和志高等学校は未来福祉科があり、今回は1年生を対象に、障害分野、地域分野、高齢分野、保育分野の四分野の講話を実施しました。

障害分野については、社会福祉法人ニライカナイ地域連携室室長の玉城恒氏ほか三人の講師を招聘し、障害福祉について講話を行いました。施設の役割、障害について、職場の雰囲気など映像や写真を使って説明しました。

地域分野については、那覇市社会福祉協議会地域福祉課主事の山城博子氏を招聘し、社会福祉協議会の地域での取り組みや働く職員の職種について説明がありました。

高齢分野については、社

会福祉法人沖繩にじの会那覇市地域密着型複合施設わらていーだ施設長の玉城善孝氏より高齢福祉の取り組みについて講話を実施しました。



保育分野については、社会福祉法人雅福祉会 松島こども園園長の島朋子氏より保育について講話を行いました。保育園やこども園、幼稚園の違いについて説明がありました。

【陽明高等学校】

陽明高等学校は福祉科があり、保育分野、高齢分野、

地域分野の申込がありました。

保育分野については、講師に社会福祉法人愛の園福祉会の統括園長の大城葉月氏を招聘し、保育の役割や保育の魅力ややりがい、職場の雰囲気や様子について講話を行いました。子どもが健康に育つことが大事、子どもたちを笑顔にしていることを生きがいにしているという保育の仕事に、生徒たちは感銘を受けていました。

十二月に高齢分野、二月に地域分野の実施を予定しています。

【中部農林高等学校】

中部農林高等学校は福祉科があり、障害分野、地域分野、保育分野、高齢分野を実施しました。

障害分野については、社会福祉法人石川学院の副管理者の屋良朝洋氏と田場明子氏を招聘して、施設の様子、職員の取り組みについて講話を行いました。石川学院では職員の新人研修やチューター制度を導入して業務やマナーを具体的に指

導していただきました。（※チューター制度とは、職場生活に関することについて近い立場のアドバイザー役のこと）

地域分野については、中部農林高等学校農業科2年生、福祉科1年生に対し、うるま市社会福祉協議会地域福祉課係長の仲村哉子氏をはじめ3人の職員、さらにゲストスピーカーとして、就労継続支援事業所 大夢（タイム）代表の石川哲次氏を招聘し、地域福祉について講話を実施しました。

十月に保育分野、高齢分野を実施します。

【本部高等学校】

本部高等学校福祉科があり、一年生を対象に児童分野について講話を実施しました。

講師は、社会福祉法人偕生会の石嶺児童園の職業指導員、上間香氏を招聘し、児童福祉の取り組みについて講話を実施しました。

日頃、児童養護施設にはなじみがない生徒は、生活の場である施設のルールにつ

いて、様々なことを感じていました。

【普通科のクラス】

通信制高等学校のメイン高等学院は、生徒の今後の進路に向けて、入門教室の申し込みがありました。

【メイン高等学院】

中部キャンパスでは、保育分野について講師に「ひまわりっ童ほいくえん」の主任保育士、並里舞氏を招聘し「保育士として業務する中で子供たちの成長する姿を近くで見守り、自分自身も成長できる保育士ならではの魅力」について講話を行いました。

沖繩キャンパスでは、高齢分野について講師に日赤安謝福祉複合施設在宅支援課長の仲田昌雄氏を招聘し、職場の雰囲気ややりがいとあわせて、児童館の子どもたちとの交流など説明していただきました。「コミュニケーションションは相手に伝わっているかが大切だとわかりました」との生徒の声がありました。

【北中城高等学校】

北中城高等学校は、生徒た

ちの進路決定の支援を目的に申し込みがありました。

障害分野について沖繩中央療護園療護課係長の佐々木博章氏を招聘し、福祉の仕事の内容や働き方、その魅力について講話を行いました。



実際の現場で働く生の声を聞いた生徒達から「インターネットで調べた内容と違い、福祉の仕事は、大変なこともあるが、人と触れ合う中で得られる思いやりや喜び、やりがいもあり社会的に必要な仕事だと思っただ」等の感想が多くありました。

【支援学校高等部】

【那覇みらい支援学校】

職業の授業・福祉班として、卒業後の就労先として福祉関連事業所を想定しているが、まずは実際に働いている方の話を伺って就労のイメージをさせたいと申し込みがありました。

那覇みらい支援学校は昨年創立の学校で、高等部2年生、3年生に対し実施しました。

高齢福祉分野については、社会福祉法人 沖繩にじの会 那覇市地域密着型複合施設わらわーだの施設課長の城間周作氏を招聘し、高齢福祉の取り組みについて講話を行いました。生徒から給料の質問に対し「以前よりも給料は上がっていますが」と処遇改善の話をお返していました。

市町村社協の法人連絡会の協力

入門教室を実施するにあたり、今回は、那覇市とうるま市の社会福祉協議会の法人連絡会の協力を得て、施設事業所への依頼を行いました。

今後の取り組みについて

今年度、福祉の人材確保と普及啓発について、福祉系以外の大学・専門学校からの申し込みがない現状です。しかし、福祉を支えるのは、福祉現場で働く職員だけではなく、様々な仕事で福祉の現場を支えていることから、福祉系以外の学生に対しても、福祉について理解を深める取り組みを入門教室をとおして、展開していきます。

また、北中城高等学校のように進路指導の一環として入門教室の活用について一般の高校にも提案していく必要があると考えます。

あわせて、離島の高等学校の生徒の中には福祉の仕事に興味関心のある生徒もいることから、福祉のキャリア教育支援を積極的に取り組んでいくこととします。



「地域の人々が明るいネットワークを築き支え合う社会」を合言葉にはじまったサンクス運動。地域社会が変動する中、支え合う社会を築く多様な活動が行われています。サンクス運動関連記事では、県社協や各種団体での取り組みや活動を紹介します。

浦添市神森中学校区 福ふくファームの取り組み

浦添市社会福祉協議会では市内5つの中学校区にコミュニティソーシャルワーカーを配置し、住民や福祉関係者と協働しながら地域の生活課題を踏まえた地域福祉活動を展開しています。本号では、空き地を活用した「共同農園」（福ふくファーム）の取り組みを紹介しています。

元々、「福ふくファーム」は、家に引きこもりがちな男性高齢者の社会参加や役割創出を目的にスタートしましたが、今では就労に不安を抱えた若者や学生ボランティアも含め、若者の居場所や社会参加の場にもなっています。曜日によって参加人数は変わりますが、定期的に3名の方が参加しています。福ふくファームでは、参加者が、好きな時間に来て、おしゃべりしながら農園での水やり等、自分から出来ることを見つけ、参加者の自主性を引き出しなが

ら、自分のペースで活動を進めています。



収穫した野菜

収穫した野菜は、地域の気になる世帯に配布したり、公民館や子どもの居場所などにも提供しています。また、新型コロナウイルスの影響により、野菜を配布できなかつたため、無人販売を実施し、売上は赤い羽根共同募金に寄付する取り組みも行っています。

コロナ禍でも収穫祭を開催し、収穫した野菜でピラヤーチを作っていました。じゃがいも収穫の際は、ボランティア、福ふく会、民生委員のメンバーで分担し、料理の仕方やコツなど情報共有しながら取り組みました。

参加者へインタビュー

福ふくファームに参加する津波古政則さんは、福ふくファームに参加する前からボランティアに興味があり、市役所から福ふくファームを紹介してもらい参加したと話してくれました。最初は、野菜づくりの知識がありませんでしたが勉強をし、失敗と成功を繰り返しながら農園での活動を楽しんでいると話してくれました。また、参加する前は、家でボーとしていることが多かったようですが、活動を始めると体力が

つき参加して良かったと、

活動に参加する前と後の変化も話してくれました。

「福ふくファームの魅力は仲間と一緒に農園で野菜を育てながら、触れ合うことができる」「コミュニティソーシャルワーカーが自分の考えを受け入れてくれるので安心して作業ができる」と語ってくれました。

今後は、「福ふくファームで野菜、お花いっぱい植えて育てたい」「地域のために頑張って活動したい」とこれから福ふくファームでやりたい事を話してくれました。

今後取り組みたいこと

地域には、身近な商店が閉店し買い物難民が増えてきているため、空き家を活用して、見守りやつながりを兼ねた「協同売店」をやってみたいと浦添市神森中学校区のコミュニティソーシャルワーカー松原初美氏と前田諒子氏が話してくれました。



▲津波古政則さん



▲活動様子

社会福祉法人 みどり葉福祉会 公私連携幼保連携型認定こども園



天願こども園 を御紹介します



今回、天願こども園を案内してくれた安座間 葉子 園長



住所：うるま市みどり町1丁目8番2号
電話番号：098-988-5178

法人概要

- 平成2年4月 認可外保育園 ひまわり学童保育園開園
- 平成16年3月 社会福祉法人 みどり葉福祉会 法人認可設置
- 平成16年4月 ひまわりっ童ほいくえん 開園
- 平成18年4月 地域子育て支援センター事業 開始
- 平成22年7月 安心こども基金補助事業による園舎増改築
- 平成28年12月 安心こども基金補助事業による園舎別棟増築
- 平成29年4月 小規模保育事業所A型 Kidsルームきらり 開所
- 平成30年4月 ひまわりっ童ほいくえん 分園ひよこ 開園
- 平成31年4月 公私連携幼保連携型認定こども園 天願こども園 開園

天願こども園ってどんなところ？

天願小学校に併設されていた天願幼稚園が認定こども園へ移行するにあたり、社会福祉法人みどり葉福祉会が天願こども園を開園。

小学校就学前の子どもを受け入れ、児童に対する教育並びに保育を必要とする児童に保育と教育を一体的に行っています。これらの児童の健やかな成長が図られるよう適切な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育ての支援を行うことを目的とします。

天願こども園の理念

認め・励まし・感謝する
思いやりの心を育む



“選択する力”を培う

～5歳児のクラブ活動～

天願こども園では5歳児を対象とした、「ぞうけいクラブ」「えほんクラブ」「おんがくクラブ」「かていかクラブ」の4つのクラブ活動があります。

クラブ活動では、自らが選択し主体的に遊ぶ(選択する)力を培うことをねらいとし、クラブ活動を通して、①表現する力、②伝える力、③発見・感動・工夫する力を培い、学びを深められるように取り組んでいます。

今年は「わったー うちなー」を共通テーマとして、各クラブ活動が展開されています。

ぞうけいクラブ

地元の焼き物工房への見学や、朝顔の成長記録と染め物体験などに挑戦します。

えほんクラブ

好きな絵本を探したり、実際に自分たちでウチナーグチの絵本の作成にチャレンジします。

おんがくクラブ

身近な廃材で楽器の作成や演奏をしたり、沖縄音楽にも触れながら音楽に親しんでいます。

かていかクラブ

衣食住を中心とした沖縄の昔の道具に触れたり、調理実習などの活動に取り組んでいます。

「保幼小連携」による地域での子育て

子ども達が幼児期教育から小学校教育へスムーズに適應できるようにするために、**保育所、幼稚園、認定こども園、小学校の連携**を図っています。

天願こども園では、幼児期の終わりまでの育ってほしい姿を手掛かりに、この幼児期ならではの資質・能力を育み、小学校の生活や学びに繋がるように「アプローチカリキュラム」に取り組んでいます。

また、小学校では、入学した子どもが、認定こども園での遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己発揮し、新しい学校生活を作り出していくための「スタートカリキュラム」に取り組んでいます。

社会福祉法人みどり葉福祉会のホームページでは天願こども園のほか、ひまわりっ童ほいくえんや Kids ルームきらり等のページもありますのでぜひご覧ください。

ご紹介をいただける法人・施設は各種別協議会まで御連絡お待ちしております。

令和4年度 日常生活自立支援事業 生活支援員研修会の開催について

認知症高齢者の増加や障害者の地域生活移行により、日常生活自立支援事業（以下「本事業」という）の利用者は今後も増加することが予想されており、実際に利用者へ支援を行う生活支援員の活動への期待がますます高まっています。

県社協では、本事業に従事する生活支援員等を対象に、事業の基本的な理解、利用者支援に必要な知識・技術を習得することを目的に「生活支援員研修会（オンデマンド配信）」を実施いたしました。

研修会では、講義動画を2本作成し、配信しました。

講義1では、県社協・福祉サービス利用支援センターから「日常生活自立支援事業における生活支援員の基本姿勢とは」と題して、本事業の概要や生活支援員としての基本姿勢、記録の取り方・書き方、専門員等との支援に関する情報共有・振り返りの重要性について説明しました。

講義2では、公益社団法人

沖縄県精神保健福祉連合会の増山幸司事務局長から「様々な環境や背景に生きる利用者さんとの向き合い方」と題して、利用者の話を聞くコツやパターンリズムについて、講師自身の経験から、自身が大切にしていることを講義いただきました。

本県における本事業の特性として、精神障害者の利用が多いことから、統合失調症やうつ病を患う方々の特徴や理解を深めました。

また、支援者として、様々な課題を抱える方々の話を聞くときはお互いの世界観を分かち合い、思い込みや前提を持ち込まずに傾聴することの重要性をお話いただきました。

まとめとして、増山氏から「支援者として自己理解を深め、自分自身を大切にすることを通してこそ、他者を尊重することができるといった、共生社会の理念についてもお話いただき

きました。

本研修会の動画については、今後、各市町村社協にて各生活支援員と視聴して学習することとなっております。また、本研修会はこちらから生活支援員として活動を希望する方にもわかりやすくまとめておりますので、興味のある方は、お住まいの市町村の社会福祉協議会までお問い合わせください。



講義2「様々な環境や背景に生きる利用者との向き合い方」

▲講師を務める沖縄県精神保健福祉会連合会 増山事務局長

福祉施策のさらなる充実に向けて 沖縄県社会福祉施策・予算対策協議会 要請書を県知事へ提出

沖縄県社会福祉施策・予算対策協議会（湧川昌秀会長）代表団9名は、8月30日、県庁を訪れ、「令和5年度県福祉施策・予算に対する要請書」を提出しました。

手交式では、湧川会長より、「長引く新型コロナウイルスの影響もあいまって、福祉課題は深刻さを増しており、さらなる福祉施策の充実が求められている。全ての要請案件が達成されるよう、最大限の配慮をお願いしたい」とあいさつし、全29項目の要請書を玉城県知事へ

手渡しました。今回の要請は、新規15項目、継続14項目の全29項目に上ります。

新規項目として、老人福祉部会からは、介護職以外にも調理員や事務員等の人材確保も課題であることから、現在実施されている「島しょ地域介護人材確保対策事業」の補助対象要件の拡充を求めました。

要請書を受け取った玉城県知事は、「新型コロナウイルスの影響や災害をはじめ、福祉分野における課題等が挙げられており、改めて県の責任の重さを認識している。これまで以上に地域や関係機関等との連携を密にして取り組んでいきたい」と述べました。

沖縄県社会福祉施策・予算対策協議会では、9月に県内全市町村及び市町村議会に対して、福祉施策の充実や予算確保に関する要請書を提出しています。



▲玉城デニー県知事に要請書を手渡す 湧川昌秀会長

私たち「新人職員」です！(沖縄県社協の職員紹介)

1. 県社協への入職を希望した理由

県社協の地域生活定着支援センター嘱託職員として4年間勤務する中で、現在の福祉制度や取り組みだけでは、支援の網の目から零れてしまう方が多くいることを痛感しました。県社協では各種事業や研修会等を通して、福祉への理解促進や地域力の拡充・強化等に携わることができると考え、入職を希望しました。

2. 現在の仕事の内容

地域生活定着支援センター職員として、刑務所や拘置所等に入所している高齢・障害者の「退所後、地域で安定した生活が送れるよう支援してほしい」という気持ちに寄り添い、地域社会の一員として日常生活が営めるよう環境調整等の相談支援業務を行っています。

3. 仕事をするうえで大切にしていること

常に疑問を持ち、深く理解するために俯瞰して業務を行うことを大切にしています。また、仕事にまい進するためにもしっかりと休息し体調管理を徹底する事を大切にしています。

4. 今後の抱負(一言メッセージ)

何事にも全集中で取り組み、「福祉の呼吸」が使えるよう精進します。さらに向こうへ!!



仲村 和馬さん
(地域生活定着支援センター)
令和4年4月採用



大城 昇次郎さん
(福祉サービス運営適正化委員会)
令和4年4月採用

1. 県社協への入職を希望した理由

社会福祉士取得後、就労支援B型事業所で支援員として一年間従事しました。利用者の福祉ニーズを知り、実現させるためには自らのスキルアップが必要だと強く感じました。そのためにも、さらに地域福祉を学び、県内の福祉ニーズに寄り添った支援を提案していく福祉職になりたいと思い、県社協への入職を希望しました。

2. 現在の仕事の内容

福祉サービス運営適正化委員会の事務局員として、福祉サービス利用者からの苦情相談の対応を主にしています。苦情は「福祉サービス事業者にとって決して消極的なもの」ではありません。苦情相談を受けた際には、改善へのヒントを拾い上げられるように、相談者の話を傾聴し、事業者利用者ニーズとして伝えられるようにしています。

3. 仕事をするうえで大切にしていること

悩んだり、困った時は、まず上司に相談し、一緒に解決策を考えるようにしています。

4. 今後の抱負(一言メッセージ)

一人一人の気持ちに寄り添える福祉職を目指します。

令和4年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、
障害者支援施設、
児童福祉施設などに

**スケールメリットを活かした割安な保険料で
充実補償をご提供します!**

◆加入対象は、社協の会員である
社会福祉法人等が運営する社会
福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償 事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見 舞い 等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

新型コロナウイルスを含む特定感染症に新たな補償が追加されました!

NEW 施設の感染症対応費用補償

休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ①休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ②消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 職員等の補償

プラン4 法人役員等の補償



団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ21-12224 から抜粋)

ふくし&ホースセラピー
『馬』を通して、『私』を見つめなおす

県内の依存症回復施設が実践する『ホースセラピー』について、取材してきました。

《取材先のご紹介》

今回取材させていただいたのは、沖縄県内にデイケアやグループホームなど5つの拠点をもち『ワンネス財団 沖縄GARDEN』（南城市）です。

ワンネス財団は17年前に奈良県で設立し、9年前に沖縄県に進出。現在は生きづらさを抱えているすべての人を対象とし、各種依存症分野でも自立していくための支援プログラムを提供している団体です。

ポジティブ心理学を元にした支援プログラムを構成し、利用者が『幸福感』を感じられる環境づくりや支援を行っています。

《ホースセラピーとは》

沖縄GARDEN施設長の島辺岳志氏によると、「『馬は人を映す鏡』である」との

ことです。馬のお世話を日々行い、馬に優しくする人には懐き、人が緊張や不安で心が乱れている時は馬も落ち着かなくなりません。

加えて、お世話や乗馬で全体を動かすことで、心と体の問題に総合的にアプローチします。

《ホースセラピー導入後の利用者の変化》

利用者A氏にもお話を伺いました。

A氏は、「以前、人と話すのが苦手で周囲との人間関係が色々と考えながら接するのがつらかった」と感じていました。しかし、ホースセラピーに参加する事で周囲との評価を気にせず、ありのままの自分で居られて、それが自



沖縄GARDEN
施設長 島辺岳志氏



景色もよく、利用者も馬ものびのびと過ごされていました。

己肯定感や癒しに繋がっていました」と笑顔で語ってくれました。

《笑顔の循環・つながり》

島辺施設長は「ホースセラピー後、利用者の笑顔や会話が增え、施設全体が明るくなりました」とのことでした。また、「馬の糞は毎朝利用者が回収し、近隣の農家に堆肥として提供する等の地域とのつながりも生まれた」とのことでした。

《今後の取り組み》

島辺施設長は、「依存症だけでなく、何らかの理由で、社会生活が営めなくなつた人々が、プログラムを通して、『生きがいを持って生き直す』ことができるようお手伝いしたい。また、卒業後も利用者達にとって拠り所となる場所にしていきたい」と語ってくれました。

「介護の日」講演会

「介護、出会い、これから」

県社協介護実習・普及センターでは、11月11日（金）の「介護の日」にちなみ、下記の日程で講演会を行います。

今回はパラアスリートの上

与那原寛和氏を講師にお迎えして「介護、出会い、これから」と題して行います。上与那原氏はSMBBC日興証券株式会社所属の車いす陸上の選手です。東京2020パラリンピック競技大会車いす陸上競技男子400m（T52）、男子1500m（T52）にて銅メダルを獲得するなど51歳となった今も現役のパラアスリートとして活躍されています。

車いす生活を始めて23年の上与那原氏は介護を受ける以前はスポーツと無縁でした。

今回の講演会では介護を受ける側の思い、家族や介護者、スポーツを通じた出会いから得た気づき、そしてこれからの介護について聞き手を交えて語っていただきます。



「介護の日」講演会「介護、出会い、これから」

講演者 上与那原寛和氏
日時：11月9日（水）
午後2時～午後4時

場所：沖縄県総合福祉センター
ター 東棟 ゆいほーる

入場：無料
定員：150名（定員に達し次第締め切り）

参加申し込み方法：QRコードよりお申込みください。

問い合わせ先

沖縄県介護実習・普及センター
ター

（電話）098（882）1484



「いご君弁当」で夏休みの食事支援（浦添市社協）

浦添市社会福祉協議会が関係団体や民生委員児童委員協議会と連携した夏休みの食事支援の取り組みを紹介しました。

「モデル小学校区」の指定

令和三年八月、沖縄食糧株式会社、株式会社沖食商事、浦添市社会福祉協議会が協定を結び、プロジェクト会議で取り組みについて話し合いがなされ、昨年度の夏休みに神森小学校区をモデルとして一回実施されました。

「取り組みのスタート」

新型コロナウイルス感染症により、経済状況の悪化により、困窮世帯が増加して、その世帯の子供たちを取り巻く環境も変化している状況でした。

地域全体で子供の成長を支えるという主体的な意識の向上をめざし、地域で困りごとを抱える世帯に対し、職を通じて支援により世帯とつながり、関係性を深めながら、家庭の問題や予兆に気づき、必要な支援に繋げていくことを目的にスタートしました。



「市内十一小学校区」への実施

モデル地区の実績を受け止めて、令和三年の十二月には市内十一の小学校で一回実施され、令和四年八月には市内十一の小学校で夏休みの間に四回の「いご君弁当」の配達が行われました。

ろうきん推進委員会から、金銭的な支援があったことと、配達は市内の民生委員が単位民児協ごとに分担して行われました。

弁当配達は二八六世帯から申し込みがあり、延べ三二八九食が配達されました。

直接的支援として、お弁当を自宅に届けることと、間接的には、配達先の困りごとな



どを把握するという目的も加えて実施されました。

時には、必要に応じて関係する情報の提供と、専門機関と連携した支援も取り組むことも視野に入れたそうです。

お弁当を受け取った世帯は申し込みのアンケートで「夏休みの間、仕事で自宅に子どもだけが留守番をしているため」「子育て世代の支援になり助かるから」という声も多数ありました。そのほか、「コロナ禍の影響で収入が減り家計が苦しい」「子供と一緒に「いご君弁当」を食べられるから」という声も多数ありました。

そのほか、「コロナ禍の影響で収入が減り家計が苦しい」「子供と一緒に「いご君弁当」を食べられるから」という声もありました。

「浦添市民生委員児童委員協議会の配達協力」

この配達には延べ二八三人の民生委員児童委員が参加されました。



配達先、配達個数を調整し、午前十一時から午後二時までの間に申込者に配達していきます。

基本的に民生委員が担当する地域を配達することから、地域の実態把握という意識で取り組まれました。配達先を訪問先が不在の場合は二度三

度と訪問して配達を行いました。お弁当を受け取った子どもたちから「ありがとうございます」の言葉には、昼の暑さも疲れも忘れさせる爽快感を覚えたとの声もありました。

高齢者に無料でお仕事のあつせん・紹介をしています

高齢者の方々が永年培った知識と経験を活かし、希望と能力に応じた仕事を紹介する無料職業紹介事業を実施。

【対象】

概ね六〇歳以上

【開所日】

平日九時から一七時まで

【場所】

沖縄県総合福祉センター
西棟三階

（福祉人材研修センター内）

【電話番号】

〇九八・八八七・〇一四八

出張相談の開催

毎月、第二、第四水曜日にグッジョブセンター沖縄にて開催しています。

※グッジョブセンター沖縄（〇九八・八六五・五〇〇六）に事前予約が必要



りゅうちゃん子どもの希望 募金



助成団体からのメッセージ

子ども食堂は孤立する子どもたちの居場所となっていると同時に、ひとり親の育児の悩みを相談できる場所となっています。



助成団体からのメッセージ

学校でも家庭でもない居場所、社会の現状や課題解決を学べました。

わが国では7人に1人の子どもが貧困に陥っていると言われていています。中でも沖縄では全国最下位の県民所得や生活コストの割高から、貧困率は全国平均の2倍と高くなっており、新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちを取り巻く環境はさらに厳しい現状です。
琉球新報社と沖縄県共同募金会では、この現状を解消したいと平成27年度から「りゅうちゃん子どもの希望募金」に取り組み、子ども食堂や無料学習塾、子どもの居場所づくり等の活動を行っている団体を応援する目的で募金活動を行っております。

子どもたちの
「安心した生活」と「未来を応援」する
民間団体の取組みを応援！

災害義援金を 受け付けています！

共同募金会では、国内で発生する災害に対して義援金を受け付けております。

義援金は、災害により被災された方への見舞金として、被災された方の生活の再建を支える資金として位置づけられています。

9月30日現在受け付け中の

銀行名	支店名	種類	口座番号
琉球銀行	石嶺	普通	476739
沖縄銀行	石嶺		1550468
沖縄海邦銀行	汀良		0264480
沖縄県農業協同組合	首里		0047634
コザ信用金庫	安里		0019262

口座名義【各金融機関共通】

シャカイフクシホウジンオキナワケンキョウドウボキンカイ カイチャウ ワク ガワ マサ ヒデ
社会福祉法人沖縄県共同募金会 会長 湧川昌秀

- 募金期間は通年です。
- 同一金融機関の窓口での振込みに限り、振込手数料が免除されます。
- 法人、個人の寄付者の方は税金の優遇措置がうけられます。(くわしくは、本会のホームページをご覧ください)

義援金は①令和4年8月大雨災害(青森・山形・新潟・石川・福井)②令和4年7月大雨災害・宮城③令和4年台風15号災害静岡県です。振込については、沖縄県共同募金会まで、電話でお問い合わせください。





赤い羽根共同募金と 歳末たすけあい募金

赤い羽根共同募金は、戦後間もない昭和22年に市民が主体の民間運動として始まり、社会福祉法に基づいて地域福祉推進のために活用されてきました。さまざまな社会変化のなかで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことが出来るよう「じぶんの町を良くするしくみ」として募金活動に取り組んでいます。

歳末たすけあい募金は、共同募金の一環として行われています。NHKの放送を通じて呼びかけている「NHK歳末たすけあい」と、市町村を単位に民生委員児童委員や社会福祉協議会等が中心となり行っている「地域歳末たすけあい」の2種類があります。



募金の種類	募金期間	募金の目的	募金が使われる時期
赤い羽根共同募金 (一般募金)	10月1日～3月31日 までの6ヶ月	身近な地域の課題解決に取り組み民間団体を支援する募金です。	翌年度に民間の団体へ助成します。
歳末たすけあい募金	12月1日～31日 までの1ヶ月	新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人々が安心して暮らすことができるよう実施している募金です。	当年度に生活困窮者や支援を必要とする方を対象とした活動へ助成します。

令和4年度中央競馬馬主社会福祉財団 助成金決定のお知らせ

この助成金は、中央競馬の馬主間で社会福祉に貢献したいという機運と、競馬に対する認識を高めることを目的に、競馬賞金の一部を拠出し助成事業を行っています。

団体名	助成金額
1 (公社)沖縄県母子寡婦福祉連合会	1,000,000円
2 (福)大成福祉会	1,000,000円
3 (福)喜寿会	1,000,000円
4 (特非)子育て応援隊いっば	970,000円
5 (特非)南風原障がい者支援センター	510,000円
6 (特非)やえせ	140,000円
7 (福)たまん福祉会	510,000円
合計	5,130,000円

「赤い羽根空の第一便伝達式」 「空の美ら島便伝達式」を開催

昨年と一昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を見送っていましたが、全日本空輸(株)のご協力により那覇市で「赤い羽根空の第一便伝達式」、日本トランスオーシャン航空(株)のご協力により石垣市と宮古島市で「赤い羽根空の美ら島便伝達式」を行うことが出来ました。この伝達式は共同募金運動の広報イベントとして全国で行われており、厚生労働大臣お

よび中央共同募金会会長、沖縄県知事のメッセージと赤い羽根が運動初日の10月1日に届けられ、共同募金運動への関心を高める機運を作りだしています。那覇市で伝達を受けた湧川昌秀沖縄県共同募金会会長は「つながることが難しい中にあるけれども、つながることをあきらめず、孤立・孤独の問題に取り組む活動を支援していくことを目的に『つながりを



お問い合わせは。。。
沖縄県共同募金会
 那覇市首里石嶺町 4-373-1
 沖縄県総合福祉センター西棟 4階
 TEL (098) 882-4353
 FAX (098) 882-4270
<https://www.okishakyo.or.jp/>



客室乗務員からメッセージの伝達

絶やさない社会づくり』を助成テーマとし、県民各位のご協力をお願いしたい」と挨拶がありました。

社会福祉ライブラリーから

本の紹介

いのちの初夜 著者：北條 民雄

若くしてハンセン病と判断された著者、北條民雄。今ではハンセン病は治療する病気の一つになりましたが、北條が活躍したころ（1935年～1937年）は効果的な治療薬もなく、顔や手足に病変が現れることから恐れられ、大きな差別と偏見をもって見られていました。



主人公である尾田高雄は23歳の青年で、作者の北條民雄とほぼ等身大の人物に設定されています。死と隣り合わせの状況で見つめた「いのち」と「文学」。コロナ禍の現在に、改めて「生命とは何か」「自分自身の差別意識とは何か」と考えさせられる1冊です。ぜひ沢山の方々に読んで頂きたいです。

寄附・寄贈者芳名 (8月1日～9月30日)

ご寄附・ご寄贈いただき、誠にありがとうございました。

生活協同組合コープおきなわ様
宜野湾市社会福祉協議会様 (8.9)



【写真左から1人目】
生活協同組合コープおきなわ
代表理事・理事長 川越 雄一郎 様
【写真左から2人目】
宜野湾市社会福祉協議会
会長 伊佐 友孝 様
【写真右から2人目】
本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

沖縄県軍用地等地主会連合会様 (9.16)



【写真左】
一般社団法人
沖縄県軍用地等地主会連合会
会長 又吉 信一 様
【写真右】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

福山グループ様 (9.20)



【写真左から2人目】
福山商事株式会社
取締役 宮城 亨 様
【写真左から1人目】
福山商事株式会社
紙業部部长 照屋 喜一郎 様
【写真右から2人目】
本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から1人目】
本会 常務理事 嘉陽 孝治

JTB協定旅館ホテル連盟
沖縄支部連合会様
JTBレキオス会様 (9.27)



【写真左】
JTB協定旅館ホテル連盟
沖縄支部連合会
会長 平良 朝敬 様
【写真右】
本会 事務局 高良 正樹

合資会社 沖縄実業様 (9.28)



【写真左から2人目】
合資会社 沖縄実業
支配人 宮里 研作 様
【写真左から1人目】
合資会社 沖縄実業
室長 藤本 勲 様
【写真右から4人目】
沖縄県子ども生活福祉部
部長 宮平 道子 様

【写真右から1人目】
沖縄県子ども生活福祉部
生活企画統括監
大城 清二 様
【写真右から3人目】
本会 会長 湧川 昌秀
【写真右から2人目】
本会 事務局 高良 正樹

写真掲載以外の寄附・寄贈者芳名

● 沖縄タオル工業株式会社

※本会への寄附については、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは総務企画部まで

「世の中のものの変化し、いつかは衰え、滅びることもある。自分らしく生きよう、生きなさい！作品自体が問いかける。自分に対する悟りかな」と、自身と対話しながら制作活動されています。「自分から出来る範囲のことをしながら続けていきたい」と、俳句や三線も楽しみながらenjoyされている上地さんです。」

題材となった『平家物語』を「調和体だと読み書きが流暢に出来るかな、仮名交じりで読みやすくより親しめるかな？」と試行錯誤しながら制作されたそうです。

「上地 恵美子さん(70)は、書を書いていた兄の影響と、「人柄が表れる宛名書きを品よく書きたい」と思ったことがきっかけで書を始めました。」

作品名 表紙の作品
「平家物語 祇園精舎の鐘の聲」



作成者：上地 恵美子さん